

## 3500年前の交易拠点に立つ「区画墓」

16

おしよろ    かんじょう    れっせき

## 忍路環状列石



- 所在地：小樽市忍路2丁目
- 問合せ先：小樽市教育委員会教育部生涯学習課（TEL 0134-32-4111）  
小樽市総合博物館 運河館（TEL 0134-22-1258）

市西部に位置する忍路地区の、小さな河岸段丘上に残るストーンサークル「忍路環状列石」と、それを囲む遺構群を含む縄文時代後期の遺跡で、ストーンサークルの範囲は国指定史跡となっています。段丘の下の低湿地部分は「忍路土場遺跡」として区分されていますが、一体の遺跡として考えられていません。

ストーンサークルは標高 20 m の緩やかな斜面を削った平らな面に砂利を敷き詰めた後、縦 33m × 横 22m の南北に長い楕円形に大小の立石が配置されています。現状では、南辺から東辺にかけての山側は二重の配石が確認できます。

国内の例としては最も早い時期（明治 19（1886）年）に専門誌に取り上げられ、その後の調査研究の基礎となりました。周辺の発掘調査や国内の類似例などから、縄文時代後期（約 3,500 年前）に造成されたこと、立石は約 9km 離れたシリバ岬（余市町）から運ばれたものであること、ストーンサークルの周囲には大

型の木柱が建てられていたことなどが明らかになっています。

市西部から余市町にかけての忍路・余市湾周辺の地域には、地鎮山環状列石、西崎山環状列石、八幡山環状列石（余市町）、モンガク B 遺跡（仁木町）といった構成や立地条件の異なる様々な環状列石が集中しています。忍路環状列石はその中でも規模が大きく、また造成作業の多さと完成後の維持管理を考えると、周辺集落による共同作業があったものと考えられます。また、隣接する忍路土場遺跡の豊富で多彩な出土遺物から、単なる葬送の場としてだけではなく、モノとヒトの集まる交易や工芸の場であったと考えられます。

小樽市総合博物館運河館（色内 2 丁目 1 番 20 号）では、忍路環状列石のレプリカや、周辺の「忍路土場遺跡」から出土した遺物の一部を展示しています。※見学には入館料が必要です。



【写真】 1 忍路環状列石    2 忍路環状列石平面図